

## 1 保健体育科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

### (1) 体育分野

- ① 学習指導要領の趣旨を踏まえた指導計画の作成
  - ・ 第1, 2学年において全ての領域を取り扱うこと
    - 今年度の第2学年は23年度に履修していない領域を履修できるようにすること。
  - ・ 第3学年における選択履修について
    - 「器械運動」「陸上運動」「水泳」「ダンス」のまとまりから一つ, 「球技」「武道」のまとまりから一つを選択すること。
  - ・ 「体づくり運動」(各学年で7単位時間以上)「体育理論」(各学年で3単位時間以上)の実指導時数を確保すること。
- ② 発達の段階のまとまりと領域の取扱い
  - ・ 「体育理論」は体育館等で運動学習のついでにやるものではない。
  - ・ 「武道」は段階的な指導を必要とするため, 特定の種目を3年間履修できるようにすることが望ましい。学習環境が整っている学校については, 異なった選択も可となる。
  - ・ 「球技」については, 第1, 2学年で三つの型をすべて履修する。第3学年では自己に適した二つの型を選択し, 第1, 2学年の学習内容を一層深められるようにする。
- ③ 指導内容の明確化と単元指導計画について
  - ・ 指導内容は「技能」「態度」「知識, 思考・判断」の三つである。
    - 「思考・判断」について
      - 課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすること。
      - ルールを工夫するという内容はレベルが高い。ある程度知識や技能が高まった状態で取り扱うこと。
    - 「態度」について
      - 「安全」の内容は単元の最初に, 「協力」の内容は単元の展開の中で行うこと。
- ④ 「言語活動の充実」について
  - ・ 思考力・判断力・表現力を育む観点から, 言語活動を充実すること。
  - ・ 各教科の目標を実現するための手だてとなること。
  - ・ 知的活動(論理や思考)やコミュニケーション, 感情の基盤となること。
  - ・ 体を動かす機会を確保した上で充実を図ること。
    - 「賞賛を送る」「認めあう」「教えあう」「コミュニケーションを図る学習」等
      - 主に「態度」の指導内容となる。
    - 「よい動き方を見付ける」「演技の違いを比較する」「技術的な課題を明確にする」等
      - 主に「思考・判断」の指導内容となる。
- ⑤ 指導と評価を一体化させた学習指導の推進
  - ・ 「思考・判断」について
    - 第1, 2学年・・・課題に応じた運動の取り組み方
    - 第3学年・・・自己の課題に応じた運動の取り組み方
  - ・ 具体的な内容・・・各領域に応じて下記の四つの内容となること。
    - 「体の動かし方や運動の行い方」 「体力や健康安全」
    - 「運動実践につながる態度」 「生涯スポーツの設計」
  - ・ 知識や技能を活用した指導について
    - 知識や技能の内容を確実に指導すること。
    - 活用する場面を設定し, 思考力, 判断力を高める学習活動を工夫すること。
    - 話し合い活動では, 課題を明確にして課題の焦点化を図ること。
    - 学習ノートなどの設問の工夫・・・見取りたい内容を書かせることが大切である。

## 中学校 保健体育科

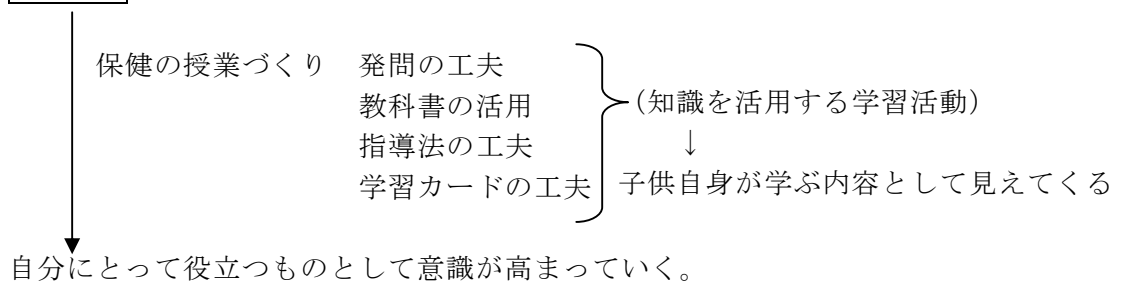
- ・ 「評価規準」の設定について  
(「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所 H23. 11. から)  
<留意点>
  - 目標に準拠した評価規準であること。(教師自身の考え方ではないこと)
  - 学習のねらいが明確であること。
  - 学習のねらいが, 生徒の学習状況として実現された姿とは, どのような状態になっているのかが具体的に想定されていること。(学習状況を判断する際の目安)
  - 指導と評価の一体化は, 教えたことを評価すること, 学習指導と評価内容及び方法の工夫改善に生かすことが大切であること。<具体的な設定方法> (※ 同参考資料の各事例を参照のこと)
  - 単元の目標・・・・・・・・・・解説の目標から設定する。
  - 単元の評価規準・・・・・・・・・・参考資料の「設定例」を基にする。
  - 学習活動に即した評価規準・・・・授業を構想して各学校で設定する。  
※ あまり細かく設定しすぎない。  
※ 時間をかけすぎない
- ・ 「態度」の指導内容と評価について
  - 指導内容は知的な理解を促し, 意欲を高めることが重要であること。  
→ 「具体的な学習場面を設定する」「役割の設定すること」等
  - 評価は, 一定の学習期間にわたって評価を行うこと。
  - 特に「努力を要する」状況の生徒への手だてが重要となること。

### (2) 保健分野

#### ① 「教え込む」授業から「考えさせる」授業へ

- ・ 「体系的に」学習する・・・・科学的に思考判断し, 適切に対処できる。
- ・ 健康に関する興味・関心を高める。
- ・ 知識を活用する学習活動を重視する。

**指導内容** ※子供には見えない



#### ② 保健分野における教育課程実施上の課題

- ・ 保健学習は実施時期をきちんと設定しておくことが重要である。(雨期, 冬季など)
- ・ 考えたり工夫したりする学習に関する意識について教師と生徒間のギャップがある。

## 2 その他

### (1) 運動部活動について

- ・ 教育課程外の学校教育活動である。
- ・ 教育課程との関連が図られるように留意する。
  - ・・・・教育課程において学習する内容について改めてその大切さを認識するよう促す(解説から)
  - 生徒が運動部の活動に積極的に参加できるように配慮する

### (2) 参考資料について

- ・ 「柔道の授業の安全な実施に向けて」H24. 3 文部科学省スポーツ青少年局